

思いやりを育てるための種まきと水やり

全日本社会貢献団体機構 会長

堀川正太郎



2009年は日本にとって大きな転換点であったと思います。米国サブプライムローン問題に端を発し、リーマンショックで追い打ちをかけられた世界不況は、振り返ればこの年が底打ちであったということになりそうです。また、米国においてはオバマ大統領が就任し、日本においては政権交代がありました。

8 しかし、新しい方向性は示されたものの社会が前進しているという実感はまだなく、混沌としたままの1年間であったとも言えます。

そうした中で、AJOSC（全日本社会貢献団体機構）並びに全日本遊技事業協同組合連合会の皆さんの活動が、変わることなく続けられたことをたいへん嬉しく思いますとともに、そのご苦勞とご努力に頭を下げずにはられません。社会貢献活動の意義をしっかりと理解し、地に足のついた活動であるからこそ、流れに左右されることなく続けることができるのだと感じております。

今日もどこかで清掃活動や献血、ボトルキャップ収集などに精を出されている方々がおられます。ひとつひとつは本当に地道な作業ですが、その結果、心待ちにしていた車椅子を手に入れたり、無事に手術をしたりと恩恵を受けられた人がいます。なにより、社会が自分を支えてくれたことに感謝するでしょう。そして次には自分が社会の役に立つことを決心されることと思います。思いやりの輪はそうのように広がっていきます。

一人ひとりが社会のために生きる。その原動力はやはり他人への思いやりでしょう。数多くの思いやりが大きな花を咲かせるのです。私たちの活動はそのための種まきであり水やりになっています。

発足して5年が経過しましたので、AJOSCもまた検証の時期を迎えています。社会にとってはより有意義で、業界にとってはさらに効果的な方向性を見いだしていきたいと考えております。

社会貢献の心とノウハウを伝えていこう

全日本社会貢献団体機構 理事長

原田 實



全日本遊技事業協同組合連合会並びに関係者の皆様、1年間ご苦勞様でした。史上最悪の世界的不況下にもかかわらず、今年も本報告書に皆様の活動記録を残すことができましたことをたいへん誇りに思い、また有り難く感じております。

例年、顕彰事業の中で、皆様の活動を拝見しております。賞という性質上、審査で甲乙をつけますが、全ての取り組みを顕彰したいと感じております。ただひとつ皆様をお願いしたいことは、ぜひ自分たち自身も楽しんで行えるような工夫をして頂きたいということです。決まりだから行っているというのでは負担になってしまい、社会貢献の心を育てることにはなりません。顕彰を受けた事業は、そうした点も考慮されている事例ですので参考にして頂ければと存じます。

また、助成事業に関しては年々認知度が高まり、応募申請数も増加の傾向にあります。それとともに私たちの活動への注目度もアップしていきますので、内輪だけではなく、地域や関連団体へ社会貢献活動の幅を広げていく好機となります。

さて、今年度の年間報告書は編集方針として「社会との共生」というテーマを掲げましたが、思えば人間である以上これは当たり前のことです。それにもかかわらず、こうした言葉が新鮮に見えるのは、やはりどこか社会に歪みが生じており、放置すればそれがひどくなることを誰もが懸念しているからに他なりません。

これまでの活動を通じて、弱者の存在や今の社会の脆弱な面について、私たちは多くのことを学びました。今後はそうした心とノウハウを社会に伝え、活用して頂くことも必要であろうと考えております。もちろん、それもこれも皆様の日頃のご努力が基礎となって築かれるものです。今後もよりよい社会のため、共に歩んでいきたいと考えております。